

都留興讓館高校・英語理数科の他校種連携事業について

山梨県立都留興讓館高等学校

1. 都留文科大学との連携事業

英語理数科1年生を対象に、学校設定科目「グローバル・サイエンス」において、都留文科大学の留学生を招いた英語によるコミュニケーション活動を実施した。本取り組みは、英会話によるコミュニケーション能力の向上だけでなく、様々な国籍や文化的背景を持つ留学生との交流を通して、広い視野と豊かな国際感覚を育み、将来国際社会で活躍できる人材を育成することを目標としている。

前期は、スペイン、フィンランド、デンマーク、韓国、フランス、イタリアなど計14名、後期はイギリス、エストニアなど計4名を迎えた。留学生はPowerPointを用いて自国の文化や社会を紹介し、生徒はそれを聞いた上で英語による質問を行った。さらに、留学生が準備した英語によるゲーム活動にも取り組み、生徒は楽しくリラックスした雰囲気の中で英語を使用することができた。回を重ねるごとに、生徒は積極的に英語でコミュニケーションを図るようになり、英語力への自信も高まっていった。

一方で、学期によって留学生の数に大きな変動がある点が課題として挙げられる。留学生が多い場合は、ほぼ1対1の英会話が可能である一方、人数が少ない場合にはグループ活動中心となり、生徒が英語を使用する量に差が生じてしまう。留学生側は、すべての生徒が英語に触れられるよう工夫した活動を準備してくれているが、人数による物理的な制約は依然として解決が難しいと感じた。



2. 小学校への高校生による外国語コミュニケーション講座

英語理数科2年生は、学校設定科目「グローバル・サイエンス」の授業において、小学校での外国語コミュニケーション講座を実施した。この取り組みは、依頼のあった小学校を訪問し、対象学年に応じた英語の出前授業を行うものである。授業内容や教材はすべて生徒自身が企画・作成し、英語を「教える」経験を通して自らの英語力を高めるとともに、相手の立場を考えて計画・実行・振り返りを行う力を育成することを目的としている。

今年度は、6月と11月に大月市立猿橋小学校、9月に都留文科大学附属小学校、10月に都留市立谷村第二小学校を訪問した。生徒たちは当初、教材づくりや指導方法に手探りの状態であったが、回を重ねるにつれて小学生の反応や特徴も把握し、より適切な教材や活動内容を準備できるようになった。同じ小学生であっても、1年生から6年生まで習熟度の差が大きいいため、訪問するたびに教材を作り直したり内容を調整したりするなど、工夫しながら取り組んだ。小学生は楽しそうに活動に参加し、高校生も回数を重ねる中で指導が上達していった。実際に、猿橋小学校を2度目に訪問した際には、担当教員から「1回目よりも生徒が自信を持って教えており、指導の質が上がっている」との評価をいただいた。これらの経験を通して、生徒はPDCAサイクルを実践し、企画力や実践力を身に付けることができた。

一方で、「小学生に英語を教える」という点については課題も見られた。ゲーム性を取り入れ、楽しく学べる授業を提供するという点では成果があったものの、小学生がどの程度英語を身に付けたかという観点では十分な成果を得られたとは言い難い。ただし、小学校外国語教育の目標にある「外国語の音声や基本的な表現に慣れ親しむ」という点は達成できたと考えられる。次回同様の機会がある場合には、まず適切な目標設定を行い、その目標を達成するための方法や、成果を確認するための評価項目を明確にした上で取り組みたい。

